

すばっと  
インタビュー

京都体操協会の新会長に就任した

関 三蔵氏



「多くの人に体操の面白さを伝えたい」と話す関会長(亀岡市)

# 指導体制の確立を目指す

京都体操協会の新会長が今年4月、関三蔵氏が就任した。体操界の現状や課題、抱負を聞いた。

（聞き手・上坂恭平）

—会長の状況は。

「男子の落田高良選手やハイアールの優勝を誇り、女子も2月の選手権を制した南丹高は全国でも通用する実力

がある。少子化の波を受け、高校生の選手は全体的に減っているが、活発なクラブの活動のおかげで新体操の競技人口は増えている」

—課題は。

「中学、高校の指導者が増えず、高齢化が進んでいる。ジュニア世代は若い指導者が出てきているが、公立校には

専門家がなかなか入って行かない。高体連、中体連とジュニアをつなぐ、指導体制を確立していくことが協会の役目だと思っている」

—5月の東日本学生選手権でつり輪が切れるアクシデントがあった。

「京都協会が保有している体操器具は1997年の京都インターハイの時に府と向日市が購入したもので、老朽化

が進んでいる。一新するには1億2千万円ほどかかる。定期的に点検しており、今のところ問題はないが、行政に更新をお願いし難い」

—取り組みは。

「年に1度、子どもたちに体操器具に触れてもらいたい

「京都GYMカーニバル」を開いている。過去にはアチネ五輪団体総合の金メダリストで、落田高出身の落田洋之さんを招いた。昨年は福元から中学生まで約600人が参加して、平均台を歩いたり、鉄棒を登って楽しんでもらった。今年も11月に向日市民体育館で開催するので、多くの人に来てもらいたい」

—抱負を。

「体操の魅力は体の美しさを、種目も多々、苦手を種目を他でカバーできる面白さもある。京都は五輪選手を輩出するなど全国的にもレベル。体操を身近に感じ、楽しさを伝えていける機会を増やしていきたい」

—落田洋之さん、高良選手、南丹高について。

「落田洋之さんは、亀岡市出身で、高良選手は、向日市出身で、南丹高は、向日市出身で、京都府の数校となり、落田高も、向日高など、府内各県に広がった。落田

Kyoto @ Shiga Sports